

●ロンドンのウェストミンスター寺院にある英国国教会司教の墓石には次のような言葉が刻まれているそうです。「…死の床について、突然、私は気がついた。もし、私が自分自身だけでも変えたなら、家族を変えられたことだろう。そして、彼らは自分の国を変えられたであろう。そうすれば、私は世界をさえ、変えることができたかもしれない…」この言葉は周囲を変える事ではなく自分が変わる事にこそ世界を変えることのできる可能性が秘められているのだと教えています。

●今日は旧約聖書に記されたアブラムのお話です。ある時、神さまが「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて私が示す地に行きなさい」と命じられました。この言葉に従ってアブラムは 75 歳で故郷ハランを離れ、3000 キロ以上にもおよぶ旅をします。ただ、アブラムにとっての旅は「地理的な旅」だけではありませんでした。この神様の呼びかけは、原文では「あなたの土地、あなたの家、あなたの家族」と記されており、「あなたの」という言葉が強調されています。そして、「行きなさい」は「レフ・レハー」という言葉で、直訳すると「あなた自身に、去れ！」となります。この「レフ・レハー」がもう一度使われるのはアブラムが息子のイサクを神に捧げるように命じられた箇所です。つまりアブラムの旅は、古い自分や自分が大切に持っているものに固執する生き方から、それを手放して神さまの言葉に従う者へと変えられていく旅でもあったのです。このアブラムの旅は平穏な旅ではなく、彼は何度も失敗をします。しかし、アブラムはその都度、目を天にあげ、自分中心から神さまのみ旨に従う歩みへと立ち帰っていったのです。

●イエス様はガリラヤの慣れ親しんだ土地を離れ、街から街へと移り、エルサレムですべての人の罪を背負って十字架で命を捨てられました。聖書はイエス様こそが、私達人間の為に、神である姿を捨てて(レフ・レハーされて)、弱く無力な姿に変わってくださり、全ての人に祝福と救いをもたらされたことを伝えています。

●アブラムの話は、人はいつでも変われるのだと告げています。私たちが、この世で少し勇気を出して自らを退け、主の愛に生きようとする時、その「愛」で誰かに笑顔がもたらされ、主イエス様に習い、苦難を耐え忍ぶその「忍耐」が、平和を生み出す力となり、絶望の淵にあっても、主にあって前を向いて生きようとする「希望」がこの世の絶望の淵にある多くの人を励ますことを信じたいのです。

「祝福の源となるように行きなさい(レフ・レハー)」という、言葉を私たちも覚えつつ、信仰の旅路をご一緒に歩んで参りましょう。